

# せんだん



## 2月も中旬となりました！



暦だそうです。1年を4つの季節に分け、さらにそれぞれの季節を6つに分けます。だから24節気ということのようです。四季の最初が、立春、立夏、立秋、立冬です。「四立」と呼ばれています。四立の前日が「節分」です。だから節分は本来1年に4回あることになります。その中で、1年の終わりであり、大晦日とも言える立春の前日が、今も豆まきなど節分の行事を行う大事な日として残っているのだそうです。2月中旬に差し掛かりましたが、日向にいと少し暖かさが感じられるようになりました。確実に春の訪れを感じます。今年度も登校日数でおよそ25日。今年度のゴールを見据え、歩みを進めていきたいと思ひます。

## 児童集会 (運営委員会) を行いました！



2月8日(木)運営委員会による児童集会が行われました。このような集会活動は特別活動の4項目の一つ「児童会活動」にあたります。社会性(世の中を生きていく力)を身につけるとも大切な学習です。今回は運営委員会のメンバーで「挨拶・返事・靴並べ(スリッパ並べ)」についての寸劇を行いました。自分達で全員に伝わるようにしっかりと

考えた素晴らしい発表でした。それぞれの学年のゴールに向けて、もう一度再確認する大変良い機会となりました。毎日のちょっとした心がけの積み重ねが、本物の力になっていきます。南小の誇りとなっていくことを願っています。

## 小学校時に身につけさせたい力

小学校時代に、是非身につけさせたいことの一つに「敬語」があります。私は「敬語」ができない子供と出会ったとき、生活経験の欠如を感じます。

「敬語」とは、社会において人と付き合う第一歩だと考えます。神戸女学院大学名誉教授の内田樹さんは、著書「死と身体」において次のように述べています。『たとえば敬語というものがありますね。あれは、相手におもねって気に入られようとしているわけではありません。「敬」という言葉の本来の意味は、「危険な物から身をそらす」ということです。「鬼神は敬してこれを遠ざく」と「論語」にあるとおり、鬼とか神様のような力があって、その力をどう使うか予測しがたいものには、軽々に近寄らず、少し距離をとった方がいいということをおしえてくれているのです。』

ですから、「敬語を使う」というのは、社会訓練の基本と考えることもできます。人には、ある程度距離を置くと安定するという習性があります。あまりずかずかと近寄られると、不愉快さを感じるものです。「敬語」とは、その適度な距離を置くための社会的道具とも考えられます。

「敬語」は、私を敬わせるためのものではありません。子供が社会で生きていくのに必要なものです。そう考えると、「敬語」を話せる子供を育てていくことが大切だと私は思ひます。

## 避難訓練 (火災) をおこないました

7日(水)子供たちに事前連絡なしの避難訓練(火災)を行いました。出火元の想定は職員室でした。縦割り掃除時間でしたが、各グループでまとまり、3分以内で避難を完了できました。「おかしも」の約束もしっかり守れました。火災の発生の放送を最後まで聞くという点については、課題も見られたので、これからの改善につなげていきたいと思ひます。

## 3月の行事予定について

- 1日(金)挨拶運動5年生 PTA評議員会(19:00～)
- ※特別日課4日～8日
- 6日(水)委員会活動
- 13日(水)集団下校
- 14日(木)卒業式総練習
- 15日(金)挨拶運動5年生
- 17日(日)家庭の日**
- 18日(月)卒業式会場設営
- 19日(火)第19回卒業証書授与式
- 22日(金)修了式・離任式・集団下校